



探究を見学！授業実践「防災 STEAM」

概要

- 授業者：坂上実芳（国語科）×野呂美波（理科）
- 日時・対象：令和5年11月17日（金）／1年生普通科
- 内容：防災をテーマとした教科横断型授業

導入 本時の授業内容や目的について説明



展開① 古典と理科の視点から題材の説明



展開② グループワーク（貞観地震の分析）



まとめ 古典と理科の視点からまとめ



●授業者が目指す授業、成果と展望、本時の感想など

【坂上】 地震という大きな問題に向き合う時に、様々な角度から物事を考えること、あらゆる事態を想定しておくことの重要性を感じてもらうことを目指しました。古典の記述を分析する活動では、各グループ様々な意見が見られましたが、どれもきちんと記述の中に根拠があるものになっており、客観的な文章の読み、誰が聞いても納得できるような意見のまとめが出来ていたと感じました。今回の授業づくりで、古典と科学の両方から地震という問題に向き合ったことによって、今まであまり感じてこなかったそれぞれの教科間の繋がりを感じることができました。生徒の皆さんにも、それぞれの教科で学んだ知識が繋がる楽しさを感じてほしいと思います。

【野呂】 東日本大震災と同規模と推測される869年貞観地震を題材とし、「過去の地震を教訓に」をテーマにしました。これは、今後起きうる南海トラフにおいても必要な考え方だと思います。また、古典を勉強する意味、文理融合の重要性を感じられる授業を目指しました。古典の記述を分析するグループワークでは、「人が立ってられないという記述から震度6～7なのでは」「5月に発生したということは、田植えの時期だから…」など様々な声が聞こえました。いつもの読解問題とは少し違う、古典の活用を実感できたのではないかと思います。今回は古典がメインだったので、災害の科学的な理解も必要と感じました。